

■ 第1回常陸多賀駅周辺地区整備計画策定委員会 議事要旨

1 日 時 令和元年7月24日(水) 午後2時から午後4時30分まで

2 場 所 多賀市民会館 1階小ホール

3 出席委員 27名(31名中)

4 会 議

(1) 開会(午後2時00分)

(2) 委員の委嘱

小川市長から代表者(小柳委員)に委嘱状が手交された。

(3) 市長あいさつ

日立市は本年9月1日に市制施行80周年という記念すべき節目を迎える。

80年前の昭和14年9月1日に当時の日立町と助川町が合併し日立市が誕生したが、同じ昭和14年4月1日には当時の国分村、鮎川村、河原子町が合併し、この地で新たに多賀町が誕生するとともに、日立製作所多賀工場が操業を開始した日でもある。

現在、日立市では新たな時代の街づくりに向けて、将来の発展の礎となる「都市力の向上」ということを一つのテーマとして、各種道路、港湾やインフラ整備に力を入れている。特に、JR常磐線の駅改築を順次進めており、大甕駅の改築、東西自由通路の整備が完成を見たところである。

多賀地区は、市内で人口が一番多い地区であり、常陸多賀駅の改築、東西自由通路整備等々の駅周辺整備をしっかりと行っていかなければならないと考えている。

また、久慈町にある「おさかなセンター」から常陸多賀駅まで、旧日立電鉄線跡地をバス専用道としてBRTが走っている。常陸多賀駅まで本格的な運行を開始し、今後常陸多賀駅から日立駅の方向へ、第三期のBRTの工事を進めようとしている。そういった交通結節点としての役割を常陸多賀駅は持っていることから、常陸多賀駅の改築、そしてまた駅周辺地域の整備を図っていくのが極めて大事であり、市の施策の中でも重要な事業として位置付けている。

私のフェイスブックにおいて常陸多賀駅周辺地区の整備計画を策定することを発信したところ、多くの関心を寄せていただいた。駅周辺の交通混雑の解消、バリアフリー化、東口でのバス発着、若者が集う賑わいづくり、買い物の利便性、そしていい雰囲気駅の改築など、幅広く意見が寄せられた。

地域の方々の関心の高さを改めて感じたところであり、皆様方から常陸多賀駅が良くなった、この周辺が賑やかになった、というような高い評価を得られるよう整備計画の策定を進めていきたい。

整備計画策定委員には、商店会、学区コミュニティの皆様を始め、市域各分野の皆様方、更には学生などの若い方々にも委員を委嘱した。各分野各層の方から、忌憚のないご意見をいただき、立派な整備計画を策定していきたい。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(4) 委員紹介

(5) 委員長、副委員長の選出

委員長には、小柳 武和 委員、副委員長には、平田 輝満 委員及び秋山 光伯 委員が選出された。

(6) 委員長あいさつ

ただ今、委員長という大役を仰せつかり、また市長のお話を聞き、市民の関心も高いということで、この委員会をどうやってまとめていくか、心してお役に立ちたい。

この常陸多賀地区を是非賑やかな場所にしていこう、ということで皆さんにお知恵をいただきながら、まとめていきたい。多賀駅周辺地区を賑やかさだけではなく、居住地としても良い場所、或いは自分の仕事を展開するにも良い場所にしていくためには、何をしていったら良いのか。交通機関を整備するだけで本当に良いのか。

そのようなことを皆さんのお知恵を拝借しながら、探っていきたい。是非、忌憚のないご意見をいただき、良い計画を策定していきたい。

ご協力のほど、よろしくお願ひしたい。

(7) 議事

議題 1：整備計画策定の進め方について

事務局から、会議資料に基づき、整備計画の目的や構成、計画期間、整備計画策定のポイント等について説明する。

〈質疑応答〉

副委員長 整備計画の策定が令和 2 年 3 月となっているが、これから半年の間にこの非常に重要なマスタープランたる計画を策定して良いものなのか。これを確定して進めるのか、それとも進捗を見ながら次年度以降にも継続して協議を行うのか、予め確認しておきたい。

事務局 今年度内に整備計画を策定したいと考えている。
ただし、個々の課題などについて継続的に協議を行う必要があるものについては、来年度以降も改めて協議の場を設けながら、それぞれの事業を進めていきたい。
この計画は来年度以降、具体的な事業を進めていくための基本的な考え方を整理するものなので、引き続き皆様のご意見をいただきながら、常陸多賀駅周辺を盛り上げていきたいと考えている。

副委員長 10月に各コミュニティとの意見交換とあるが、地元の商店会の人の意見を聞くというのが抜けていては、意味を成さない。商業・工業の人、特に駅前の商店会の

方との意見交換会をきちんと設定してほしい。

事務局 承知した。

委員 整備計画の対象とするエリアとして、駅から概ね半径800mとあるが、約4分の1が工場施設となっている。できれば、工場は駅前あたりだけにして、あとは大久保小学校あたりまで範囲を移すことはできないのか。エリア設定の考えを聞きたい。

事務局 工場の部分で具体的なまちづくりを進めるというのは、企業の意向もあるのでなかなか難しいと思うが、今回駅東口を整備するにあたって、BRTの日立駅方面への延伸を考えた時にどういうルートを通るのかということもあり、駅北側については線路の東西をエリアに含ませていただいた。

もう1点、大久保小学校の辺りは、今回の半径800mのエリアには含まれていないが、並行して策定している「都市計画マスタープラン」や「立地適正化計画」の中では、中部地区の中心地区（都市機能誘導区域）を、大久保小学校のエリア（末広町1丁目）まで含めて考えているので、この整備計画についても一体的に計画を考えていくということをご理解をいただきたい。

議題2：常陸多賀駅周辺地区の現状と課題について

事務局から、資料3に基づき、考慮すべき社会的動向や潮流、日立市における人口、常陸多賀駅周辺地区の現状等について説明する。

〈質疑応答〉

委員 駅から半径800m以内で歩いて暮らせるまちづくりというキャッチフレーズ的な計画を説明いただいたが、私たちの地区は800mに入っていない。

まちをつくるときに、周辺から人を呼び込んで賑やかにするのか、或いは住民のために利便性を考えて生活がしやすくするのか。今回の計画のコンセプトはどちらに重点を置いているのか教えてほしい。

事務局 常陸多賀駅周辺では人口が3割程度減少しており、今回の計画では、まずは人が暮らせるよう、駅周辺にも人が住めて、ここで暮らせるような計画をつくるイメージをもっている。

一方、交流人口を増やしていきたいとしているのは、毎日2千人くらいの方が工場への通勤で常陸多賀駅を利用されている。そういった人たちが常陸多賀駅周辺に溜まる、駅周辺で物を食べたり、お酒を飲んだり、ここで時間を消費するような仕掛けを

して、ここに住み、ここに集まる人が増えることが常陸多賀駅周辺地区のポイントだと考える。

大沼地区については、BRTの開通で常陸多賀駅に接続することになったので、駅を利用する機会も増える。その、ちょっと寄って滞留する際に、大沼地区の方たちにとって、駅周辺にどんな施設があればちょっと立ち寄りたくなるのか、というようなご意見もいただきたいと考えている。

委員 駅そのものの機能として、施設内に商業エリアを開発することを考えているのか。

事務局 これから皆さんのご意見を伺いながら、商業などのボリューム感、施設内容と言ったことを模索していかなくてはならない。

地区にお住まいの方々の話を聞いていると、駅周辺には生鮮食品や日用品を買うところがないとのことであるため、生活に必要なものが買えるお店があった方がいいと考える。そのようなことと、どのくらいのボリューム感でどのような施設が必要かというようなことなど、これから皆さんから意見をいただきながら、検討していきたい。

委員 常陸多賀駅そのものの改築計画はまだ示せないのか。

駅の中に例えば図書館などの公共施設を入れて、駅の中でも人々が集うような、そういう構想を入れればそれと合わせて周辺の整備を行うこともできるのではないか。

事務局 駅舎については築60年程度経過しており、駅舎の改築については、今後JRさんと協議を進めていくことになる。

先ほど図書館という話があったが、駅の中に入れるのか、それとも駅に近接して接続させるのかなど、機能や配置計画についてもこの委員会で検討していきたい。

議題3：意見交換

各委員から今後の計画策定に向けた意見等が述べられた。

副委員長

- ・過去60年間でつくられてきたまちの現状を見た時に、何で今こういう状態になってしまったのか、レビューと反省が必要である。
- ・個人的には多賀駅前地区に「住みたい」と思うほどの魅力を感じていない。
- ・スーパーや図書館をつくるなどといった、目先の課題への対処療法的な計画をつくるというよりは、将来世代のことも考えた時に今何をすべきかなど、都市計画マスタープランの下につく、まちづくりのかなり長期の方向性を出さないといけないと考えており、きちんとした「まちづくりのコンセプト」を市民の皆さんと共有しながら計画を作っていくことが重要である。

・コミュニティはしっかりしているので、さまざまな方と意見交換しつつ作り上げていくことがかなり重要である。

・“歩いて暮らせるまち”をつくるということに共感する。一方で、日立は自然が多いが、街なかに自然を感じられるところが少ない。国内外を問わず、公園などの魅力ある施設をつくと、その周りに人が集まり、その周りに商店が出店するなどのサイクルが生まれる。商店誘致を優先するのではなく、商店が出店してくるような環境、競争力の高い環境をつくることが重要である。

委員 ・勝田駅周辺では、マンション分譲により居住人口が2千人程度増え、駅前の商店街も賑わっている現状がある。短期的には、駅前の居住人口をいかに増やすかが重要になると考える。

・最近日立に魅力を感じないということで、ひたちなかや水戸に引っ越してしまうケースを多々見ており、魅力度からいうと厳しい状況があるため、どうやって魅力付けをしていくかが重要である。

・居住人口を増やす施策も必要だし、協力したい。

委員 ・駅舎の改修については、今後委員会で意見を頂戴して、市と調整して進めていきたい。また、改修にあたっては、駅周辺の活性化につなげることが重要であり、東西自由通路の整備計画とあわせて、駅東西でのまちづくりを検討していくことが重要である。

委員 ・BRT沿線と多賀駅との連携が重要だと認識しているが、都市の構造上、BRT沿線に商業施設を持つてくるのは難しいため、多賀駅、あるいは駅からそれほど離れていない場所に生活に必要な機能を集約していく必要がある。それによって、半径800mの範囲だけでなく、BRT沿線の方も生活に不便を感じないという方向に持っていくことが必要である。

委員 ・工場従事者向け飲食店、場所づくり、エリア・ゾーンづくりをすれば、また活性化するのではないか。

・学生が勉強できる場所があっても良い。

委員 ・線路東側の企業地内に新たに移動動線を確保し、歩行者動線と自転車動線を大学通りと分散するなど、安全な人の動線を考慮してはどうか。

委員 ・諏訪学区では、日立市では初となるデマンド方式によるタクシーのお出掛け支援の実証実験を、今年の10月から半年間行う予定がある。

・学区の中は良いが、商店街等は降車ポイントとして認められなかった（駅周辺で

は、多賀支所・常陸多賀駅)

・その時点で賑わいというより交通結節点としての機能しか意識が向いていないため、まずはその意識を変えていかないと、賑わいのあるまちづくりはできない。

委員 ・対象エリア内には墓地が3か所含まれる。将来における総合的なまちの土地利用計画を検討する際は、墓地の移転、集約等の可能性も考慮すべきである。

委員 ・東口も整備し、交通渋滞の緩和、工場沿い河原子方面への既存道路整備など、利便性の向上を図ってほしい。
・河原子海岸との連携も考慮できるように、対象エリアを約800mからもう少し広げるなど検討してほしい。

委員 ・塙山地区ではバスの乗車率を上げながら、駅まで乗って行こうという話をしているが、駅まで行っても楽しいところがないという状況がある。
・今後開発をしていくうえでは、「ものがたりのあるまち」というのが良い。例えば昔ながらの家、街並みを活用するなど、狭いエリアでも良いので、そういう場所、モノの考え方があっても良い。
・居住人口を増やしていく中で、住み替えを推進することは難しいと聞いているが、若い人にどうやって住んでもらえるか、うまい仕掛けを検討する必要がある。
・車を通さないことでダメになった街も見えてきた。歩いて暮らせるまちづくりというテーマがあったが、現実的に街なかから車を排除するのは難しいので、うまく車と共存できる方法ないか知恵を絞りたい。

委員 ・人が出かけてくるには駐車場の整備、確保が必要。買い物などでは、皆、自家用車に依存している現状を考慮する必要がある。
・客寄せ施設、楽しみを持てる施設が必要。人が出かけてくるような雰囲気をつくれると良い。

委員 ・多賀に愛着を持っている。
・他者に対して、自分自身が感じている多賀の魅力をどのようにわかりやすく伝えていけるかを考えたい。
・今後どうやって大学生を使っていくか、利用していくか考えていくことも必要である。
・50～80年後の街を考えるうえで、目先の課題だけでなく、その時生きている人達が何を求め、どんな街に住みたいか考えていくことも必要である。

- 委員 ・ 駅周辺に公園などの運動できる場所があったら良い。
- 委員 ・ 待ち時間など、待ち合わせも楽しめる（時間がつぶせる）場所が欲しい。
- 委員 ・ 茨城大の学生は、水戸での教養課程が終わって、工学部キャンパスに通うようになるが、体育の授業が無くなり、運動する機会が減ってしまうので、運動できる場所、駅周辺にあれば大学生で賑わうのではないか。
- 委員 ・ 駅周辺の既存の公共施設がどのように活用されているのか、今後活用にあたりどのような課題があるのかを踏まえながら、駅周辺にどういった公共施設が必要か考えていく必要がある。
- 委員 ・ 大学生の意見も幅広く機会があっても良いと考える。
- 委員 ・ 市では空き店舗の活用を図る、街なかの活性を図るということで支援を行っている
- 委員 ・ 平成29年に空き店舗の調査を実施し、当時は、多賀管内で14店舗の空きがあった。その後、街なかの空き店舗活用事業として、出店者に建物改装費用などを補助しており、平成29年度は1件、平成30年度は3件の出店実績があった。
- 委員 ・ 日立地区に比べれば、多賀地区の空き店舗は少ない。東日本大震災の被害などによって建物を取り壊し、跡地を駐車場として整備したことで空き店舗が少なくなっているという要因もある。
- 委員 ・ また、比較的新規出店が多い理由としては、やはり足元人口が多いということが考えられる。
- 委員 ・ 新たに整備計画を策定するなかで、現在行っている支援策と合わせて新たにどういう支援ができるのか考えながら参加させていただく。
- 委員 ・ 総合計画は、日立市の最上位計画であり、その実現に向けて後期基本計画を策定している。今年度は5年計画の中間年度となるが、常陸多賀駅周辺地区の整備は、その中の重点事業に位置付けられているので、しっかりと計画を検討し、良いものにしていきたい。
- 委員 ・ 人口動態については、東京圏への一極集中が止まらない中であって、本市の場合は東京圏への転出のほか、水戸・ひたちなかなど、近隣への転出も多い。それを分析すると、大学への進学や就職に伴う転出が多く、就業地の変更や、子どもが生まれて家を買うタイミングで転出する方も多い。
- 委員 ・ まち・ひと・しごと創生総合戦略について、今年度新たな計画を策定するが、人口減少が続いているなかで要因を分析し、対策を立てる上で、今回の意見を参考に今後の市の人口減少対策にも取り組んでいきたい。

- 委員 ・西口交通広場内では、送迎車両が混雑し、車列が連なってしまいう現状が見受けられ、交番からも課題として指摘されている。駅利用車両と通過交通の分離ができず、渋滞を起こしている現状があると考えられる。
- ・今回の開発において、渋滞対策も検討していければと考えている
 - ・東口交通広場も同様に駅利用車両と通過交通を分離するよう検討すべきである。
- 委員 ・まちづくりは長い時間がかかる コンセプトや目的が非常に大事である。
- ・持続可能な魅力的なまちづくりをどう進めていくか、事業は目的でなく手段であるので、まちをどのように使っていくか考えることが重要である。
 - ・BRTは常陸多賀地区の大きな特徴であり、セールスポイントなので、うまく活用した仕掛けづくりが重要である。
- 委員 ・茨城県でも人口減少が進んでおり、30年後には約250万人、現在から約40万人減になると推測されている。
- ・このまま人口減少が進行すると、行政サービスが低下してしまうので、各市町村において居住エリアを集約するような計画（立地適正化計画）の策定をすすめており、県内でも44市町村のうち6割が公表、もしくは計画策定に着手している。
 - ・駅舎に図書館をつくるのはなかなか難しいが、例えば駅の東西に駐車場があるのでここを利用しながら再開発事業で行えば可能なのではないかと。
- 委員 ・県北地域では大きな企業を誘致して従業員を貼り付けるというのは難しいので個人に起業してもらい、まちづくりの活性化に寄与してもらえればということで取り組んでいる。
- ・BRTなど他にない魅力があるエリアなので、人口は減っているが、皆様のお知恵で他にない魅力の呼び戻しはできるのではないかと。
 - ・県北振興局の方でも外から人を呼び込むことでお手伝いできないか、一緒に考えていきたい。
- 委員 ・他の地域にないもの、インパクトのある施設があった方が良い。
- ・例えば多賀市民プラザの広場に冬場だけスケートリンクができたり、夏場は子供向けの水遊びができる場があったり、それを目的に小さいお子さんのいるお母さんたちも集まり、その周りにカフェなどもできたりするのではないかと。
 - ・起業する側からすると、空き家や空き店舗など地域の情報が一元化されると良いと考える。また、出店・起業する際は資金面が一番の課題であるので、助成金を増やすなど起業のハードルを下げてもらえるとありがたい。

- 委員 ・周りに話を聞いても、駅は全然つまらない、結局乗降・乗換する場でしかないという意見が多い。
- ・送り迎えの時間は大体みなさん一緒であるため、フリースペースなどがあって、自習・勉強する場があれば、お迎え時の混雑も緩和されるのではないかな。
- ・子どもたちからは、“ラウンドワン”がほしい、体を動かして楽しめる施設が多賀にはないのか、などの意見があった。
- ・市営住宅があると、人が集まることで賑わいが生まれ、店ができたり、商店街とのコミュニケーションが取れるのではないかな。
- 委員 ・女性フォーラムでは駅ごとにランチマップを作成している。
- ・3通りの利用客 ①通勤、通学客、②平日の日中利用する高齢者、③休日の家族連れ、が楽しめる施設が駅周辺にあれば、人が集まると考える。
- ・BRTが大事な交通施設となる 第三期のルートを示していただくと、常陸多賀駅がどういう駅になった方が良いのか考えられる。
- ・日立駅は近代的な駅、大甕駅も素敵になった。常陸多賀駅は古風なレトロな、落ち着いたような駅が良いのではないかな。
- 委員 ・商店としての一番の問題は、後継者問題である。
- ・令和2年3月整備計画策定となっているが、本当はいつ駅舎ができて、まちが変わるのか示してもらわないと商店会としては話ができない。
- ・1～2年が死活問題で仕事をしているので、夢を与えるような街をここの中で早く出してもらいたいというのが本音である。
- ・昭和っぽい、温かい雰囲気の駅ができると良いという意見に賛同する。
- 委員 ・日立市内で、特に多賀地区は団塊の世代が一番多いのではないかな。
- ・商店街もここ何年かでバタバタと店を辞めているのが現実であり、20～30年後先の話をしても、その時には多賀の商店街はもうないかもしれない
- ・特効薬的に3～5年先の短期間で効果が出る施策が必要であり、事業スケジュールを示してもらえないと、商店会内でもなかなか具体的な議論はできない。
- ・水戸など近隣でも、近年整備された駅前施設だが、既に成り立っていないケースも見受けられる。この地区に合った常陸多賀駅の改築など、小さくても機能的な駅をつくっていただければありがたい
- ・早い時期に、お金を掛けなくてもいい、とにかく多賀の商店街が残っているうちに動いていただきたい。

副 委 員 長

- ・ やっと多賀地区の開発に乗り出したと感じている。
- ・ 合併前、旧多賀町は都市計画の進んだまちだったが、日立市と合併してから計画が止まってしまった感がある。
- ・ 多賀地区の活性化を図らなければ、日立市の活性化はない。
- ・ 上位計画に拘らず、枠にとらわれない柔軟な意見交換を行うことが重要である。
- ・ 図書館については、必要なものだが街の活性化の決め手にはならない。
- ・ 駅舎には商業施設はあまりつくらないようにしてほしい。JRにとっては駅舎をつくってテナントを入れればプラスになるかもしれないが、周りの街が発展しなくなる可能性がある。
- ・ 東側の開発については工場の意見が非常に重要となる。
- ・ 住民、商店、工業と皆で意見を出しあって、計画を進めていくことが重要である。

委 員 長
(ま と め)

- ・ 常陸多賀駅周辺を日立の中で、どういう位置付けをして計画を策定していくのが重要となる。
- ・ コンパクトシティを目指していく中で、それぞれの駅を拠点に位置付けていくとのことだが、それぞれの駅がもつ特色を出しながら拠点性を持たせ、棲み分けを行うことで、それぞれの目的を持った人たちが、それぞれの駅に集まることになると考える。
- ・ 地元の熱意を感じており、スピード感を持って取り組むということが重要だと再認識した。

(8) 閉会 (午後4時30分)

以 上